

一緒に考えましょう！ 子どもの育ち

立科町教育相談員
岩上 起美 男 著

昨年の5月に発行された冊子
「一緒に考えましょう！ 子どもの育ち」
立科町教育委員会発行

そこで、感想というほどのものではありませんが、拝読して自分なりに感じたことや考えたことを申し上げ、お礼とさせていただきますと存じます。

まず、失礼を承知で申し上げますが、語彙や表現が適切で、大変読みやすい文章であることに、さすが国語科の先生とと思いました。と申しますのも、他市町村の「広報」には、敬語の使い方をはじめ、人を教え導く立場にある方の文章としては疑問に思われる表現がしばしば見られ、至極残念な思いを抱くことが少なくないからです。

岩上先生の文章は、決して難しい言葉を使ったり、仰々しい表現をしたりしているわけではありませんが、格調の高さを感じさせるものでした。——この点だ

けでも、教師として読む価値のある文章だと思いました。

そのうえ、ご提言の内容の豊かさと言いましようか、親と教師という子どもを育てる役割と責任を担っている者への親身で、的確なご助言の一つ一つに首肯せざるを得ませんでした。大上段に構えるのではなく、具体的な事例と共に紹介されていますので、一度読むだけでも、十分に納得させられました。

また、親の在り方や養育姿勢、児童・生徒の生育歴、親子関係、家庭環境など、中学生の健全な成長のために極めて重要な要因でありながら、日頃なかなか親と教師が共有できない点、すなわち、教師が踏み込めない家庭の問題についても、人生の先輩の知恵として、端的に指摘し

ていただいております、本当に有難いと思いました。常々、子育てにおける知恵の伝承は、現代の日本の教育を考える上で非常に大切で、不可欠な営みと考えていたからです。

先生の、このようなご提言をきちんと受け止めることができれば、現在、多くの中学校で起こっている生徒指導上の深刻な問題は激減すると思われれます。特に、携帯電話やスマートフォンの使用、いじめの問題については、親と教師が、今、改めてこの本を読み返し、考え直すことが必要なのではないか、と考えさせられました。

したがって、この本を中学生までのお子さんがいらつしやる全家庭に配布された立科町教育委員会のご英断は、大いに評価されるべきです。

家庭配布されたこの本を、ぜひ保護者の皆さんにお読みいただきたいと願っています。そして、先生がご指摘の通り、子育ては、家庭と学校と地域が連携して行うものですから、保護者の方だけではなく、学校に集うすべての方が先生のご提言を共有しなければならぬと思います。殊に教師は、先生のご提言を謙虚に受け止め、十分に共通理解しなければなりません。

子どもを真ん中に置いて、親と教師が、「岩上先生の本に、こう書いてあります

だね。」と話し合いながら、家庭と学校が車軸の両輪のように連携し、「協働」できれば、素晴らしいと思います。

保護者の皆さんの中には、私など以上に、この本を読んでおられる方が大勢いらっしゃるかと存じます。今後、学校や教育委員会が、機会があるごとに、さらにこの本を読み深め、学び合う取り組みを工夫し、実践されますことを切望しています。

そうすることが、折角の先生のご提言を生かすことにつながりますので、私も保護者の方と、この「一緒に考えましょう！ 子どもの育ち」を折々に話題にしていきたいと考えています。



我褒め、手前味噌の極みのような遠回しの我田引水で恐縮ですが、子育て中の親御さんにおかれましては、何年か後に、「あのとき、もっと子どもにも向き合っていればよかった。知らず知らずのうちに、子どもを親の事情や生活ペースに巻き込み、便利で、豊かな情報化社会の大洪水に流されていた。」と悔いても、「欠落した成長期」をもう一度体験し直すことは容易ではありませんので、A先生のお言葉に耳を傾けていただければ、幸甚の至りに存じます。